

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | | |
|----------------|-------------------------|----|--------|----|
| ○事業所名 | ハッピーテラス実教教室 | | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年1月20日 ～ 2025年3月10日 | | | |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 50 | (回答者数) | 37 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年3月3日 ～ 2025年3月4日 | | | |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 7 | (回答者数) | 7 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年3月7日 | | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的にやっている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|---|
| 1 | 環境・体勢整備の中で、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていることや、障害の特性に応じたバリアフリー化について環境上の配慮がなされている。 | トレーニングにおいて正面にはおもちゃや漫画を置かず、職員やホワイトボードに注目が集まるようにしていること。また、運動や場所の確保をする際には、視覚情報で認識がはかれるよう印をつけること、車いすでも入所可能なバリアフリー化がなされている。 | 教室内における安全確保が不十分な場所について職員間での協議や検討を重ねながら、より安全な環境づくりにつとめた。 |
| 2 | 活動プログラムの立案や固定化されないように工夫をしている。 | 四季や社会情勢による話題、様々な観点からこどもが前向きになるようなプログラムの提案が望めるよう、職員間での都度の会議や検討会を実施している。必要に応じて日程や時間を決め、時間の猶予を作りそれぞれが創意工夫した提案が望めるようつとめている。 | 課題の見えにくい利用者に対しても、より過ごしやすい環境作りがはかれるよう、提案材料を増やしていくことや密な関わりに尽力していけると良い。 |
| 3 | こどもが自己選択できるような支援の工夫。 | こどもの凸凹に目を向け、苦手なものに対して参加が可能な選択肢を準備しながら、選び、実践し、成功体験が積み重ねられるよう支援をしている。また、不定期ではあるがこどもが欲しいと感じるおもちゃや道具について、聞き取りの上で提供できるようにしている。 | こどもの特性や興味にあわせたおもちゃや遊びの提案をより多く提供をできるよう、日々の関わりを通してニーズ理解や柔軟な対応をより強化していきたい。 |

| | 事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|--|
| 1 | ご家族やきょうだいの方が参加できるプログラム（ペアレントトレーニング含む） | 現段階ではハッピーテラスのプログラムとして、ご本人以外を対象としたプログラムの提供を行っていません。保護者様向けのペアレントトレーニングも全体では現状行えておらず、保護者様から随時お困り事についてのご相談をいただき、面談や支援会議を適宜行っていく形で対応させていただいております。 | ごきょうだいの安全面やご家庭ごとのプライバシー保護の観点も踏まえた上で、開催可能なプログラムを検討していきます。 |
| 2 | 地域との交流、開かれた事業所運営について | 昨今の情勢や総合的な安全面を鑑み、不特定多数の方が事業所に出入りすることができるプログラムの実施は現在行っていないことが現状です。知らない相手との関わりに強い拒否感のあるお子様もあり、取り組み内容は慎重な検討が必要と感じています。 | 地域の祭りや展示会に参加し、関わりを作っていく等の企画を検討していきます。 |
| 3 | 学校を卒業し、福祉サービス事業所へ移行する場合、支援内容の提供について。 | 保護者の方と相談を重ねながら、必要に応じて学校との情報共有を行う時間を確保している。また、就職に向け、相談支援事業所との連絡調整を行い、相談支援事業所や学校から就職先へ情報共有を行っていただいている。 | 卒業後も遊びに来られるような一つの居場所として提供ができるよう、就職先との連携や情報共有につとめ、学校や保護者への働きかけについて考えていく必要がある。 |